事業実施報告書

法人名　特定非営利活動法人げんきネット武蔵台

事業名	農園部-男の居場所づくり事業
助成枠の種類	令和3年度埼玉県NPO活動促進助成事業 （NPO活動サポート事業） スタートアップ事業
1.事業の目的	家に引きこもりがちなシニア世代の方々が地域に出るきっかけとなる居場所を作り、アクティブシニアとして地域活動に参画してもらう道筋を作る事業となることを目的とする。
2.事業で取り組んだ地域や社会の課題	日高市武蔵台団地は、約2200戸の郊外住宅団地です。高齢化率は５０％を超え、リタイヤ—した人たち、特に男性は家に引きこもりがちです。地域の活性化が喫緊の課題であるこの地域で、アクティブシニアが地域の活動に参加してもらう仕組みづくりが急がれています。
3.取り組んだ事業の具体的な内容・実施結果	約５００坪の休耕農地を借りて、雑草の除去から始め、大根、ジャガイモ、サツマイモなどの種まき、植付けから収穫までの作業を展開しました。 畑は、共同耕作農園と、個人の趣味農園の２区分を作り、毎週土曜日の共同畑作業（約２時間）と個人が思い思いに野菜作りを楽しむ作業を行いました。 ・共同作業時間：毎週土曜日　２時間 　9:00 - 11:00　(冬季は10:00 - 12:00) ・参加者は、毎週10人前後 ・畑作業を経験した会員数は、22人 ・収穫野菜：ジャガイモ/40Kg さつま芋/68Kg えごま/1.2Kg 他 収穫野菜は、ショッピングセンターで即売したり、参加者に無料で配布するなど、農園活動をPRしました。 また、夏の枝豆試食会、秋のサツマイモ収穫祭、芋煮会を実施し、当事業活動を住民に広く知ってもらう機会となりました。 １年間の活動で、参加者の間に連携感も芽生え、地域活性化活動の基盤に成長していくことが期待されます。

<table>
<tr>
<td></td>
<td>
<table>
<tr><th>時期</th><th>内容</th></tr>
<tr><td>７月</td><td>草取り、耕転、施肥など、畑づくり</td></tr>
<tr><td>８月</td><td>秋野菜の作付準備</td></tr>
<tr><td>９月</td><td>ジャガイモ、ミヨガ収穫</td></tr>
<tr><td>１０月</td><td>サツマイモ収穫</td></tr>
<tr><td>１１月</td><td>サツマイモ収穫祭/石焼き芋を楽しむ</td></tr>
<tr><td>１２月</td><td>芋煮会</td></tr>
<tr><td>１月</td><td>農園小屋の作成に着手</td></tr>
<tr><td>２月</td><td>小屋づくり継続、春野菜の作付け準備</td></tr>
</table>

〇広報実績について
９月に農園だよりを作成し、げんきネット武蔵台の広報誌として全戸に配布しました。
</td>
</tr>
<tr>
<td>4. 事業実施により達成した成果の具体的な内容</td>
<td>畑をやりたいために、新たにげんきネット武蔵台の会員となった人が８人もいました。
毎週土曜日の共同農園作業は、わいわいがやがや。自然と人の繋がりが強まっていきます。
収穫野菜をショッピングセンター広場で即売する活動に、住民が興味を示すようになりました。野菜を洗ったり、販売したりするグループも出来てきました。
今、畑に農機具を入れる小屋を手作りしています。
自分たちが自ら活動して何かを生み出す喜びが、活動に参加しているみんなの中に芽生えて来るのを感じます。</td>
</tr>
<tr>
<td>5. 費用面での工夫</td>
<td>使わない農機具を頂いたり、壊れた農機具を直しながら使ったり、経費の節減に努めた活動が基本です。
費用を少しでも抑えるために、地元農家の方からトラクターをお借りし、同時にいろいろ教わることが多いです。そのような活動が、団地住民と地元の方との繋がりをもたらす効果にもなっています。

収穫野菜の販売金額は、当該期間だけでも４万６千円ほどありました。売上金は全て、肥料や種などを購入する資金の一部に還元しました。</td>
</tr>
</table>

6. 地域社会への還元について	まち活性化活動に加わって頂く機会を創出しています。 この「男の居場所づくり」事業は始まったばかりです。これから、この活動をさらに充実させ、元気なシニアが、一人でも多く家からまちに出て、元気に活動する地域社会を目指します。
7. 来年度以降どう事業を継続し発展させていくか	畑に小屋を作っています。この小屋を中心に、みんなが憩える場所づくりを予定しています。 また、畑で採れた季節の野菜を食材にした食事を提供する活動を展開する準備を始めます。 個食高齢者の朝食提供活動とリンクした活動の展開も目指します。 このような活動の一つ一つが、まちの活性化に繋がっていくことになると信じています。